

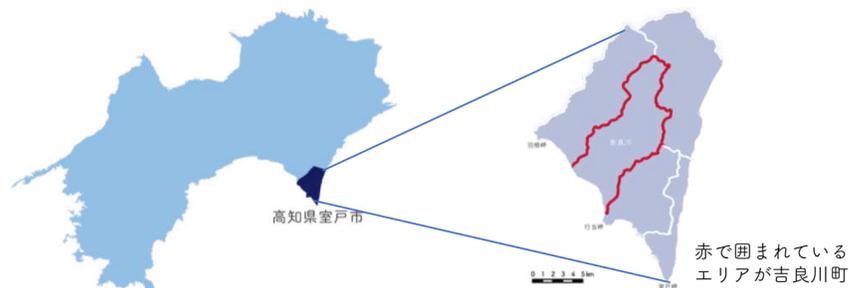
私たちにできること -地震災害から命を守るために-



高知県立室戸高等学校2年 林 愛美 谷口 結菜

【目的】 室戸市吉良川町の災害発生時避難路を調査し、あらゆる年代、条件の方が安全に的確に避難するための方法を考える

【調査場所位置情報：高知県室戸市吉良川町】



【南海トラフ地震とそれに付随する津波被害の想定】

- 1) 今後30年以内の地震発生確率予想70~80%
- 2) 津波の高さ予想 最大24メートル（沿岸部）
- 3) 津波到達までの予想時間 数分~10分

(NHK NEWS WEB 2021.8.31 閲覧)

→地震災害にどう対応するのかは、喫緊の課題

**【調査1】 津波避難タワーまでの実際の避難時間を計測
2年次数学の授業を活用**

活動内容

- 1) 吉良川地区までの地震発生時の津波到達時間をハザードマップを使用し、安全に避難するための避難時間を計算。
- 2) その後、実際にその時間内で誰もが安全に逃げられるかどうかを現地で調査

避難ルートの設定：全長約500m（右資料1参照）

スタート地点：吉良川町並み第二駐車場

ゴール地点：吉良川西町津波避難タワー（海拔15.7m）

条件によって下記3つのグループに分かれ避難

- Aグループ：土地勘ありで車椅子補助チーム（避難時間：6分）
- Bグループ：土地勘なしの女子チーム（避難時間：8分）
- Cグループ：土地勘なしの男子チーム（避難時間：13分）



資料1

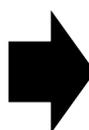


実際の検証時の様子

【調査結果】

土地勘ありとなしでは避難する時間に大きな差が生まれる。

- ※男子チームは土地勘がなく、誘導看板に従って避難していたが、途中で迷い津波避難タワーまでたどり着くのに時間がかかっていた。
- ※土地勘があるグループは、車椅子補助をしながらも目的地までスムーズに移動ができた。



導きだされた課題：

地域外の方（土地勘がない方）の避難の手助けの方法

- ※誘導看板だけでは不十分
- ※声掛けを意識した避難補助が必要

【調査2：調査結果を振り返り、課題出し】

調査1の結果について生徒たちで振り返るための授業を運営し、導き出された課題についても議論し、以下のように課題を整理。

- 課題1) 避難経路の道路状況が悪い
段差（階段）がある・道幅が狭い→高齢者や車いすでの避難が難しい
- 課題2) 避難誘導看板の位置
すべてが高い位置に設置されていたため、子どもでもわかりやすいように工夫が必要
- 課題3) 津波避難タワーに屋根がない
避難時が雨天の場合、長時間の避難が困難（大津波警報が解除されるまでその場所にとどまる必要がある）



【調査3：室戸市防災対策課に調査内容と課題について報告】

調査結果から出された課題について、室戸市防災対策課に報告させていただき、職員の方から今後の活動に関して下記のとおり助言をいただいた。

課題1への回答

避難場所の高さを確保する必要があったことと、整備完了までの時間を優先した結果現状の形になっている。また車椅子専用通路の整備は、時間がかかり、難しい。

課題2への回答

「子どもの目線」という発想は今まで考えることがなく、新しい視点を教えてもらった。

課題3への回答

法律上、津波避難タワーには屋根がつけられない。飽くまでも津波から身を守る一時避難場所なので、雨風をしのぐ用途としては建設されていない。



【今後の課題1：土地勘がない方の避難の手助けの方法】

災害発生時の避難者同士での声掛けの重要性などについて、広く周知していくためにはどのような手段が効率的か考える。

【今後の課題2：車いす・高齢者・その他身体的ハンディキャップがある方の避難の方法を考える】

防災対策課からいただいた助言の中で、何らかのハンディキャップがある方の安全な避難方法については具体的な解決策が出されていない。今後はどんな工夫をすればハンディキャップがあっても効率的に素早く避難できるのかについて考える。

【謝辞】 本調査の実施にあたり、室戸市防災対策課の職員の皆様には津波避難タワーの使用及び報告会の実施をご快諾いただきました。また調査結果に関して、今後の研究課題にもつながる助言をいただき、大変感謝しています。